



は朝7時から夜11時、12時まで2交代で詰め、1日10回から15回整氷作業に当たります。

失敗もしました。ある日は朝7時から夜11時、12時まで2交代で詰め、1日10回から15回整氷作業に当たります。夏、電気施設点検のため、の停電日があったので、大きな大会に合わせて臨機応変に氷作りをするのではありません。毎日の積み重ねでできた「今の氷」という世界標準をキープするのが筋を通すことと考えています。

「リンクは、冷却液を通すパイプに厚さ2・5センチで盛り砂し、その上に水をまいて氷を作る。1回はレーザーで計測し、サイドを削ってフラットに保つように作業します。コーチから「この氷は滑っていて疲れない」と、うれしい言葉をかけてもらったことがありますが、一般に開放してないから傷が少ないんだと思います。」

私たちの会社はビル管理などが主な業務で、氷作りや管理は初めての経験でした。中京大は地下水を使うためほととは水質や水温が違います。だから、製氷のための散水量とか削る量など個別に

私たちが主な業務で、氷作りや管理は初めての経験でした。中京大は地下水を使うためほととは水質や水温が違います。だから、製氷のための散水量とか削る量など個別に

後、小塚選手が「氷の質は変わらなかつた」と語ったと新聞記事で見ました。「世界の氷」のレベルで管理ができていますと

「リンクは、冷却液を通すパイプに厚さ2・5センチで盛り砂し、その上に水をまいて氷を作る。1回はレーザーで計測し、サイドを削ってフラットに保つように作業します。コーチから「この氷は滑っていて疲れない」と、うれしい言葉をかけてもらったことがありますが、一般に開放してないから傷が少ないんだと思います。」

「リンクは、冷却液を通すパイプに厚さ2・5センチで盛り砂し、その上に水をまいて氷を作る。1回はレーザーで計測し、サイドを削ってフラットに保つように作業します。コーチから「この氷は滑っていて疲れない」と、うれしい言葉をかけてもらったことがありますが、一般に開放してないから傷が少ないんだと思います。」

## フィギュアリンク支える

# 世界標準に管理 選手は無事願う

「フィギュアスケートの日本代表選手は世界トップ級の実力者がずらり。このうち安藤美姫、浅田真央、村上佳菜子や小塚崇彦らの練習拠点は、愛知県豊田市の中京大学アイスアリーナだ。ここは国際規格のメインリンクとサブリンクの氷の管理を任せられ、アイスマンと呼ばれる専門家を率いている。」

アイスマンの仕事に休みはありません。昨年の大みそかは、練習後1時間、氷の状態を整える作業をしてアリーナを出たのは夜9時。元日はリンクは休みですが、氷作りの要である冷凍機の点検に来ました。シーズン中

## 野村雄二さん

アイスマン

### 略歴

のむら・ゆうじ 1976年、愛知県豊田市生まれ。名古屋市内の専門学校からビル・メンテナンスなどを業務とするホームメックス社入社。営業で中京大を担当していた縁で、アイスアリーナ完成前年の2006年から同社中京大豊田学舎事業所所長。アイスマン4人を束ねる。



「浅田選手らのコーチの佐藤信夫さんからは、指を触れると水面が少し解けるくらい温度が最適と教えられました」と語る野村雄二さん。愛知県豊田市の中京大アイスアリーナ

経験が蓄積し勉強してきました。最初は地下水をろ過しましたが、今はそのまま使っています。水はきれい過ぎると氷がもろくなるんですよ。」

「世界レベルの選手の拠点となっていることは誇りですが、逆にすごいプレッシャーです。管理が甘くて穴があいたり、氷の削りかすが落ちていて、けがをさせたりなんてできない。気が休まりません。だから金メダルより1年無事にシーズンをやり遂げたことの方が私自身の喜びです。」

(聞き手は共同通信編集委員・小沢剛、写真・速藤望)